

第六葛西小学校「姉妹校協力委員会」13年の歩み

- 1994年 7月 20周年実行委員会(教職員・PTA役員・PTA役員OB・近隣自治会などからの代表で組織)で「ネパール児童教育基金」の設立が正式決定。同時に、前年度から計画していたバザー、ろくっこまつりなどの開催決定と近隣自治会の参加協力を依頼。
- 10月 20周年記念式典で関口実行委員長より駐日ネパール公使へ、児童代表より日本ユニセフ協会代表に学校建設資金の目録贈呈。
- 1995年 1月 ネパール文部省のウッタム・アマティア氏(児童教育局長)が、ネパール大使館の紹介で本校を訪問。ネパール政府とUNDP(国連開発計画)が推進するネパール初等教育改革計画のため、日本の教育システムの調査研究が目的。最後に本校の計画を伝えたところ、UNDP/ネパールの坂口代表に連絡することをアドバイスされる。翌日に坂口代表に電話連絡で本校の計画を伝える。
- 2月 坂口代表より、帰国したアマティア氏と代表のキャロル・ロング氏を交えて以下の結果について連絡が入る。
- 1) ネパールの初等教育改革計画に、本校のプロジェクトをモデルケースとして組み入れる。
 - 2) UNDPが責任を持って姉妹校を斡旋する。
 - 3) 姉妹校に本校が望む記念パネルを設置する。
- 4月 UNDP駐ネパール代表のキャロル・ロング氏より、本校のプロジェクト推進の候補地として、バネパ市(首都カトマンズより東に26km)を推薦したい旨の連絡を受ける。本校の関係者で協議した結果、UNDPの推薦を受ける旨の返事をする。
- 5月 キャロル・ロング氏がランバクタ・シュレスタバネパ市長に会い協議した結果、本校との姉妹校をバネパ市で実現させることで合意。バネパ市に関する諸々の資料に添えて、推薦校の選択が本校に求められる。本プロジェクトの顧問である辻井氏がネパール訪問の計画があることから、推薦校への訪問を辻井氏に依頼した旨をキャロル・ロング氏に連絡。
- 6月 キャロル・ロング氏から辻井氏と協議した内容報告と共に、バネパ市の「ジャナジョティ小学校」が最終候補として残った旨の経過説明があり、本校の了解が求められる。本校の関係者で協議の結果、本校と「ジャナジョティ小学校」の姉妹校提携を了解する旨を返事。(すでにある校舎のリフォームと予算額内での新校舎建設)
- 本校の事業内容は20周年記念式典前に報告していたが、国連との共同事業になった経過を区長と教育委員会(当時の教育長は多田現区長)に報告。以後の経過についても報告して欲しい旨を依頼された。
- 8月 キャロル・ロング氏から、19頁に亘る「覚書」が本校に届く。記されている内容のポイントは以下のとおり。

- 1) バネパ市長の要請のもと、「ジャナジョティ小学校」と本校が姉妹校になった経過について。
- 2) ネパール側に「学校建設促進委員会」が結成されたこと(UNDP代表・バネパ市長・学校関係者・地域代表・保護者代表などで組織)。
- 3) NY国連本部に駐ネパールUNDP代表から、本校のプロジェクトに予算を計上して参加することの承認を得た経過と、UNDPが本校と一緒に事業を行うことの意義について。
- 4) 「覚書」にはUNDP、ネパール文部省、本校のそれぞれの代表がサインして保持するが、その儀式は本校の代表団がネパール訪問の折に挙行したいこと。
- 5) 本プロジェクトの今後の進行状況等は駐 UNDP 代表を通して、本校、ネパール文部省、バネパ市長、学校建設促進委員会、ネパール大蔵省(会計監査)、国連本部に報告されること。

- 9月 夏休み期間中で返事が遅れたお詫びと、本校は全ての進行をUNDPに委任する旨を返事。なお、本校からのネパール訪問は追って返事する旨を連絡。
- 10月 UNDPから本校のネパール代表団派遣の要請が区長宛に届く。
- 11月 姉妹校調印を目的に、第一次代表団7名がネパール(ジャナジョティ小学校)を訪問
- 1996年 2月 駐ネパール日本公使が出席のもと、校舎建設スタートの植樹祭が行われた様子の写真とビデオが本校に届く。
- 10月 UNDPの費用負担(滞在費は本校)で、ジャナジョティ小学校からナラヤン校長とクリシュナ君が来校。
- 11月 UNDPから本校のネパール代表団派遣の要請が区長宛に届く。
- 12月 開校式典への出席を目的に、第二次代表団13名がネパールを訪問。
- 1997年 3月 キャロル・ロング代表から卒業生を祝うメッセージが届く。
- 1998年 キャロル・ロング代表が任務地変更でネパールを離れてから急速にコミュニケーション状況が悪化。後任のヘニング・カルチャー氏に連絡したところ、何か問題があった時にお手伝いするのはやぶさかではないが、UNDPは校舎建設/開校式典終了後に組織が解散した時点で終了しているとの見解。コミュニケーション先を、新任のバネパ市長に求める。
- 1999年 11月 開校25周年記念に合わせてスレンドラ・シュレスタ バネパ市長、ピスタ君、ミジャールさんの3名を招待。区長への訪問、本校でのスポーツイベント、記念植樹祭を実施。
- 2000年 12月 第三次代表団21名がネパール訪問。この時からネパール国内での政情不安が起る。
- 2001年 6月 バネパ市長より沼倉校長宛に着任を祝うメッセージが本校に届く。
- 2002年 1月 バネパ市長が来日を機に本校を表敬訪問。その後も、コミュニケーションだけは絶やさない努力で現在に至っている。
- 2005年 8月 富永先生を吉田校長から紹介され、スクマン - 富永スクール実現へのサポートを開始。
- 2005年 11月 ウッタム・カルマチャリア夫妻、ロミ・カトリ君、レヌーカ・ラワットさんの4名を招待。

区長への訪問、スケート教室、ディズニーランド、音楽会参加など充実した1週間を過ごしてもらおう。

2006年12月 第四次代表団20名がネパール訪問。

*これまでのジャナジョティ小学校に関する援助額

1995年 学校建設と既存校舎の改築費用として 2,000,000円 を20周年実行委員会より支出

1996年～2001年 年間経費の半額相当の援助 200,000円/年 をPTA会費とユニセフ募金の一部から支出

2002年～2007年 100,000円/年 をPTA会費とユニセフ募金の一部から支出

2008年 第三期交流を決定。2014年までの六年間に毎年経済支援10万円を継続する事になる。

12月28日～2009年1月3日まで、第五次訪問団22名がネパールを訪問。

ジャナジョティ小学校に本校の援助で高校コース、幼稚コース、図書室(六葛西小文庫)新設。

同校の自助努力でパソコン教育の国家指定校になり、パソコン教室が設置される。